

1 単元名 「青い地球はだれのもの？ - 環境提言集を作ろう - 」

2 対 象 第5学年1組 40名

3 単元について

5年生にとっての「互いに伝え合い、高め合う」姿が具体的に見られるようにするには、次の4点が課題となると考えた。

切実性のあるテーマの設定。

児童の目的意識が持続し、課題追求が継続的に発展できる単元構成。

学習活動に「交信」できる場を設定し、質的な向上が望める学習展開。

児童に達成感がもてるような、目に見える「結果」。

本単元「青い地球はだれのもの？」は、この4点の課題から考えた「環境問題」についての学習である。「環境」に関する教材は国語の教科書にもあり、また、他教科にもある。

の課題から、「国語」は「国語」、「社会」は「社会」と別々に学習するのではなく、「環境問題」というテーマに沿って、学習活動によって関連づけられる単元構成を考えた。

この学習は、児童が2学期半ばに学習する「公害」の授業（社会科）から始まる。ここでいう「公害」はいわゆる「産業型公害」である。児童はこの学習の過程で、病気の原因が発達した工業にあることを知り、公害を防ぎ、環境を守ることで人間のくらしや命も守られていくことを知る。しかし、少しでも意識すれば、多くの情報のなかで暮らしている児童は、環境汚染が今も進行していることに気づくであろう。その気づきから、自分たちの身の回りの環境について、調べる学習に入る。児童は、提示された調べる場所や方法のなかから選択し、グループごとに調査・まとめの計画を立て、学習を進める。それぞれのグループが異なることを調べるようにして、お互いに報告する。こうして、地域の環境について知った後で、地域に住み、環境問題を追究しておられる方を講師として招き、実際に話を聞く場を持つ。話の内容は現在の問題について取り上げられているので、それぞれの児童のとらえが違っても考え、どんな話だったか（話し手の要旨をつかむ）を班で振り返る場を設定する。ここで、もっと知りたいことを意識しながら、説明文「一秒が一年をこわす」を読み、筆者の要旨をとらえ、自分なりの環境問題についての意見を書く。講師の話も説明文も、「考えよう」と児童に投げかけている。続いてする学習は、その投げかけに答えるものでありたい。投げかけられた問題の対象は大きく「何をしたらいいか」と考えることは、児童にとって容易なことではないが、「提言」を書くという活動を通して、自分の考えを更に深めさせたい。また、「提言」先を具体的に、そのために、「正確な情報をもとに書いているか」「意図と根拠がはっきりした訴えになっているか」という点から内容を見直す場を設け、伝え合おうとする意欲を高めるようにしたい。

4 教材・資料

国語科：「調査したことを」「みんなで考えよう」

社会科：「工業の発達と公害」

「わたしたちのくらしと国土のようす」

家庭科：「緑黄色野菜を使った調理実習」「調理実習後の後始末」

特別活動（学級活動）：班の活動の時間「協力してテーマについて調べる，まとめる。」

5 単元目標

ア 単元全体の目標
調べたり考えをまとめたりする活動を通して，身の回りのことや自然や社会に起こる環境の問題の存在に気づき，積極的に「環境問題」に関心を持つことができる。

イ 各教科等の目標
国語科

環境問題についての問題意識をはっきり持ち，自分の考えをまとめることができる。（表現 エ）

- テーマに沿った事柄を調べるため，必要な文章を読んだり，必要な情報を聞いたりできる。（理解 キ）

社会科

- 環境について理解できるようにし，環境の保全の重要性に関心を持つことができる。

家庭科

- 食事を工夫して整えるという実践的な活動を通して，安全で適切な後始末の方法がわかる。

特別活動（学級活動の時間）

- 分担して調べたりまとめたりする班活動を通して，健康な生活のために主体的に解決していこうとする意欲を高める。

単元の構成

単元名 青い地球はだれのもの？—環境提言集を作ろう—
《児童の意識の流れ》

【社会科】

公害の問題について考える学習
公害の原因とそれを防ぐ努力を知る
（6時間）

【家庭科】

家庭科の調理実習後環境を汚さないための手だてを実践する
・油の汚れは？
・ごみの始末は？
（1時間）

【社会科】

生活型公害についてや環境保全の重要性について再認識する。
（7時間）

【国語科】

『提言集』を読んで感想を書く。
（1時間）

【国語科・特別活動】

身の回りの環境について，簡単な調査をし，まとめる。
・水・空気・土・ごみ・食品添加物について，グループに分かれ，調べる。
・各グループごとに小発表をし，まとめる。
・まとめたことを報告する準備をする。
・報告会をする。
・青野先生の話聞く。
（国語8＋特活3）

「一秒が一年をこわす」を読む。
・初発の感想
・要旨を読み取り，自分の考えを書く。
・環境についての問題を話し合い，今後の計画を立てる。

「提言集」づくりをする。
・どんな提言集をつくるか，話し合う。
・テーマに沿って調査し，まとめる。
・内容の検討会を開く。
（国語8＋特活2）

工場が原因というだけかな？
・私たちの周りはどうだろう？

・どんなことを調べたらいいのかな。
・友達が調べたことと比べてみよう

・違うところ，同じところは？
・青野先生の話聞いてこう思った。

・「一秒が一年をこわす」を読んで，こう思った。
・環境問題はだれの問題？

・どんな内容にすれば役に立つかな。
・内容はこれでいいだろうか。

6 単元の学習過程（全 42 時間）

内容 段階	学習のねらい	学習内容	児童の 学習活動	教師の 支援活動
導入 / と ら え る	1 社会科 『工業の発達と公害の問題』 ・公害の被害状況や原因を調べ、公害に苦しむ人々の取り組みを理解する。 ・公害防止の対策が、国民の健康保護のために重要であることを知る。（4 時間）	公害の問題について調べる。 ↓ 原因について知り、身近に環境を汚染する原因はないか考える。	活動 1 水俣病がどんな病気なのか調べ、公害を防ぐ努力について知る。 活動 2 身の回りに環境を汚染するものがないかを考える。	* 四大公害のなかから、熊本の水俣病を中心にして考えさせる。 * 目を自分たちの身の回りの汚れに向けさせ、意識化を図る。
展 開 / 追 究 す る	2 特別活動（学級活動） 『身の回りの環境の実態』 ・実態調査したことを協力してまとめることができる。（3 時間） 3 国語科 『調査したことを』 ・進んで調査し、調べたことと意見を区別して、わかりやすく発表することができる。 ・要旨を考えながら聞くことができる。（8 時間）	身近な環境について、調べる。 ↓ 環境・環境問題について、青野先生の話聞く。	活動 3 身の回りの環境について、調査し、まとめる。 ・水調べ ・空気調べ ・土調べ ・ごみ調べ ・食品調べ 活動 4 まとめたことについて、報告会を開く。 活動 5 青野先生の話聞き、感想を書く。 活動 6 青野先生の話と感想について、話し合う。	* 調査の手引を作成し、グループで調査の計画を立案させる。 * まとめの手引を作成し、助言する。 * 報告会のリハーサルをして、発表の仕方について助言する。 * 話を聞く意欲を高められるように、報告会後に設定する。
展 開	3 国語科 『みんなで考えよう』（「一秒が一年をこわす」8 時間） ・要旨を読みとり、自分なりの考えをまとめることができる。（「環境提言集をつくろう」10 時間 /	説明文「一秒が一年をこわす」を読む。 ↓	活動 7 初発の感想を書き、数字の使われ方を調べる。 活動 8 内容を読みとり、要旨についてまとめる。	* 文章に出てくる数字の意味に着目させ、内容をとらえさせる。 * 挿し絵をかいてから内容をとらえさせるようにする。

段階	学 習 の ね ら い	学 習 内 容	児 童 の 学 習 活 動	教 師 の 支 援 活 動
追 究 す る ま と め / 見 つ め 直 す	うち2時間は学級活動の時間を充てる。 ・テーマに沿って調べ、自分の考えがわかる文章を書くことができる。	環境提言集づくりの計画を立てテーマに沿って調査しまとめる。	活動9(授業記録1) 環境についての問題を話し合い、今後の学習計画を立てる。	* 環境問題について、自分の考えをまとめさせてから話し合わせる。
	4 家庭科 『黄緑色野菜を使った調理実習』 ・生活排水・ごみの分別について考えようとする。(1時間)	家庭科の調理実習後、環境を汚さないための手だての実践をする。	活動10(授業記録2) テーマに沿って、調査し、まとめる ・内容の決定 ・分担 ・内容検討会	* 内容的に高まるように、内容検討会を設定する。
	5 社会科 『わたしたちのくらしと国土のようす』 ・国土の様子と生活型公害について理解し、環境保全についてまとめることができる。(7時間)	生活型公害についてや環境保全の重要性について再認識する。	活動11 今までの学習を思い出し、調理実習の後かたづけを環境を汚さないようにする。	* 生活排水、ごみについて考えさせ、今まで学習したことを実践させるための助言をする。
	6 国語科 『提言集』を読んで感想を書くことができる。(1時間)	『提言集』への反響を知り、感想を書く。	活動12 全国の自然環境の様子と汚染の広がりについての実態を把握し、環境を守っていかなければいけないことを再認識する。	* 展開で作った提言が、実は自分たちにもあてたものであり、どのような実現をしていくか考えていけるように助言する。
			活動13 感想を読み、返事・感想を書く。	* 次への行動へつながるように、助言する。

7 指導過程(1)(活動9 - 2時間目)

○本時の目標

環境提言集の内容を決めるために、自分が選んだ事項と選んだ理由をはっきり言うことができる。

○本時の学習展開

学 習 活 動	予想される児童の反応 ・学習状況	児童に対する支援(・) ・評 価(○)
1 本時のめあてをつかむ。	・環境提言集の内容を決めよう。 【内容決定の基準】 考える回数が多い。 特に気になる。(心配) 自分たちで調べられる。	・各自、前時に書いたプリントを準備させておく。
2 どんな内容の環境提言集にするかを話し合う。	・学習班に分かれて、班内で話し合いをする。	・話し合いについては、基準に基づいて意見を出す方法(A型)と

3 選んだ理由を発表し，内容を決定する。 4 次時のめあてをつかむ。	A 型の話し合い ・ どのことについてよく考えるか。それは，なぜか。 ・ 特に気になることは，何か。それは，なぜか。 ・ 調べられそうな事は，... B 型の話し合い ・ わたしは（ぼくは）○○のことを一番よく考える。それは，...だからだ。 ・ わたしは（ぼくは）○○のことが気になる。それは，...だからだ。 ・ ○○のことはよく知っている。 まとめの話し合い ・ わたしたちの班では，○○と○○について出すようにする。 ・ 「○○についてを提言したいと思ったわけは，.....」というように，根拠をはっきりさせて発表する。 ・ 発表に対し，「○○班の理由を聞いて質問があります。」，「同感です。」等感想を話す。 ・ 分担・方法を決めて，提言集を書くことを知る。	順番に意見を出す方法（B 型）のいずれでもよいものとする。話し方のパターンは手引として示す。 ○理由をはっきり言うことができる。（自己評価，観察） ○発表について，感想や質問を出し合いながら話し合いができる。（自己評価，観察） ・ 各班ごとに色画用紙に調べる内容を簡単に書き，黒板に掲示させる。 ・ 基準を観点に聞くようにさせる。聞き取りカードを準備する。 ○理由をはっきり言うことができる。（観察） ○発表に対し，感想・気づきを持つことができる。（聞き取りカード）
--	---	--